

心得2

想定にとらわれない

ハザードマップは、安全を保証する地図ではありません。

想定はあくまで自然現象を予測するシナリオのひとつです。想定以上の災害の発生も考えられますし、想定が無いからといって安全というわけではありません。

想定されている
災害を
みてみましょう

きづき
マップ

03 ~ 04 ページ

心得3

事前の対応が最も重要

災害により命を守れるかは、災害が起こる前後の行動で決まります。そのなかでも、大きく影響するのは、事前（発災前）の対応です。

災害毎の対応を
みてみましょう

対応の
きづき

05 ~ 06 ページ

心得4

原則は 早い段階で安全な場所へ
逃げ遅れたら その場そのときで最も安全な場所へ

早い段階で安全な場所へ避難することが大原則ですが、逃げ遅れてしまった場合には、その場そのときの状況で最も安全と思われる場所で身を守りましょう。

避難の方法を
みてみましょう

避難の
いろは

07 ~ 08 ページ

心得5

情報を待たず早めの避難

土砂災害や洪水災害などの危険性が高まった場合には、避難情報を発令します。避難情報を積極的に収集し、避難しましょう。

しかし、土砂災害は、避難情報を事前に出すことが非常に困難な災害です。避難情報に加えて注意する情報を確認しましょう。

災害時の情報を
みてみましょう

避難を
助ける情報

09 ~ 12 ページ

心得6

最善を尽くす

避難といっても、必ずしも市が指定する避難場所に行くことではありません。周辺の様子を見て、その場、そのときに最も安全と思われる行動をとりましょう。

実際の対応を
考えてみましょう

対応を
考える

13 ~ 37 ページ

災害時の連絡先・問い合わせ先

38 ページ

想定されている地震を知る

39 ~ 40 ページ

避難所等の一覧

41 ~ 42 ページ